

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	大阪大学・上智大学	整理番号	3-1-005
応募テーマ	主として総合的取組に関するテーマ		
取組名称	大学対抗交渉コンペティション		
申請単位	共同		
申請担当者	野村 美明（大阪大学）		
<p>(取組の概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 目標 国際的に通用する交渉者の養成 2 目的 ①大学を超えた他流試合の場を設け、交渉学習のインセンティブを高める、②交渉教育に対する社会の関心を深める。 3 背景 交渉教育の供給不足と社会的ニーズ拡大のギャップを解消するために、平成 12 年度から大学と法曹で教育戦略を研究。 4 内容 各大学（昨年は 8 大学）のチームが、国際ビジネス紛争に関する模擬問題をもとに、A 国の会社と B 国の会社に分かれて英語と日本語で仲裁と交渉をし、現役の弁護士、仲裁人、企業人、大学教員らからなる審査員が採点して結果を競う。 5 特色 ①非営利的で熱意ある産学官連携、②留学生を含む参加者による心の通い合う真に国際的な教育。 6 効果 参加者へのインパクト大。人生観が変わった、日本の学生はすばらしいとの評価。グループ学習の顕著な効果や学生の動機の向上がみられ、上記目的①を達成。 7 展望 ①大学や国境を越えた切磋琢磨の場に。②教育における産学官連携の新しいモデルに。③交渉・対話の学部大学院一貫教育へ。 			
<p>(採択理由)</p> <p>経済のグローバル化により、国際的に通用する交渉者の育成は急務となっておりますが、大学教育において交渉教育は緒についたばかりです。この取組は、交渉教育を推進する複数大学が核となり、企業や法曹関係者の協力を得て「大学対抗コンペティション(交渉コンペ)」を実行し、学生に交渉学習に向けた動機づけを高める意欲的なプログラムです。この取組には、ビジネス実務における産学官連携の新しい方向性が示唆されるほか、学生のチーム学習による学習意欲の高まりが認められるなど、多くの成果が認められます。これから大学教育においてますます重要となる交渉者の育成を競争的環境の中で実施するプログラムは、他大学にとっても大いに参考になるものです。</p> <p>今後、大阪大学のコミュニケーション・デザイン・センター構想などの教育体系と融合し、交渉教育がさらに体系的に構築・運営されることを期待します。</p>			